

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	中空 智子
論文担当者	主査 芳川 浩男
	副査 吉矢 晋一
	副査 吉村 紳一
学位論文名	Effectiveness of 7-day versus weekday-only rehabilitation for stroke patients in an acute-care hospital: a retrospective cohort study (急性期脳卒中患者における 365 日リハビリテーションの効果)
論文審査の結果の要旨	
<p>急性期脳卒中患者に対するリハビリテーションの介入頻度が、身体機能についてどの程度、回復に影響を及ぼすのかを検討するための後方視的観察研究が、国家公務員共済組合連合会三宿病院にて 2012 年 10 月から 4 年間実施された。早期リハビリテーションは、急性期脳卒中患者に広く推奨されているが、実臨床の場面においても、毎日の早期リハビリテーション（高頻度療法）を受けている脳卒中患者の機能予後が、平日のみリハビリテーションを受ける患者よりも有意に優れているという仮説を検証することが本研究の目的である。方法は 2010 年 10 月から 2014 年 9 月までの間、脳梗塞または脳出血のいずれかを経験し、その後リハビリテーションを受けた入院患者を分析した。訓練頻度と日常生活動作能力(ADL)の関連性を調べた。脳梗塞患者 661 人と脳出血患者 245 人を分析した結果、ADL は、脳梗塞後の高頻度療法を受けている患者において最も改善した。さらに、多重線形回帰分析では、ADL の改善が、脳梗塞患者の高頻度療法と有意かつ正の相関があることが示された（係数 0.072; 95%信頼区間 0.019-0.126; P <0.01）。脳出血を有する患者の治療プロトコール間の ADL の改善に有意差はなかった。本研究は実臨床場面における多数例での急性期脳梗塞患者の高頻度リハと機能回復の間の関連を実証した初めての報告であり、学位授与に値する内容と判断された。</p>	